

■2012年1月1日 MOKU出版発行  
「月刊 MOKU 1月号」



【表紙】

雑誌作 読書いっはは、読出いっははのいっははを生きかゝる 14

【特集】  
**Stand up!**

逞しき「湿润」の思想 日本人の強靱な精神を育んだ風土行旅

著者◎ 山崎雄雄 108 井澤甲二 16

希望の始まるとは地へ根を 著者◎ 藤原正典 藤原正典 14

「スラック型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 16

民権主義を醸成してよいのか 著者◎ 藤原正典 藤原正典 18

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 20

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 22

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 24

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 26

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 28

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 30

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 32

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 34

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 36

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 38

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 40

「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 42



「ローテク型文明」から「ローテク文明」へ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 44



日本人というブランド力 著者◎ 興善花 6  
絶対的ないのちを生かす 著者◎ 坂東三郎 18  
いまを生きる営みが問われる年 著者◎ 坂東三郎 18

遺伝子が語る教育の未来

著者◎ 村上和雄 高橋史朗 108

COSMOGRAPHY 千佳博 7

日に晒され風に吹かれ◎ 著者◎ 浅井慎平 4

plate graphing◎  
TAWAMURE 著◎ 大塚弘 14

CONVATU

いのちのサンダー◎  
海があるから◎ 著者◎ 河瀬直美 16

サンダー◎ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 18

日は二つ耳は二つ◎ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 20

二十一年間の文化行脚◎ 著者◎ 藤原正典 藤原正典 22

加瀬俊「天」の時代◎ 著者◎ 加瀬英明 164

にっぽん人情小説◎ 著者◎ 三浦孝直 168

急変◎ 著者◎ 下重優子 168

情愛の美人◎  
押けない町◎ 著者◎ 長瀬毅 111

大江戸御膳◎ 著者◎ 山口繁 94

愛を車に乗せた江戸司法の精鋭◎ 著者◎ 山口繁 94

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96

生かす◎ 著者◎ 玄秀盛 96



# 幸せを選択する生き方

鶴岡 秀子 (Tsuoka Shoko)

## 志者博士候補の軌跡

二〇二二年三月十二日、故郷の日本人は「地震」「津波」「原発」という三大災害を経験しました。ある日突然、ふるさとがなくなってしまう悲劇を多くの人が感じただけではないでしょうか。また、現在も進行中である「経済危機」に対しても、不安を持っている人も多いと思います。

ある人は「政治」に切りこんで不満を爆発させます。でも、その人たちは選んだのは、国民一人一人であり、私自身であると感じました。「個人事」としての意見を表現してはいいのですが、自分事として感じることは絶対にすべきなことだと思います。

そんな中、これからの時代に必要なのは、「一人一人が自分の人生に責任を持つリーダーシップを発揮し、幸せを選択すること」と考えています。

## 日本人の持つ資質

震災以降、被災地には世界中から善意と支援が注ぎました。各国メディアからは、報道が済んだことを繰り返して事故が起らないことや、避難所でも整然と並び食糧を分け合う姿、自然前に敬意をたっぷり表現する始める日本人の姿に、世界の目が驚かれました。また、アーンシャルキョウセル（社会的資本）が世界から讃えられ、悲しみの癒えない中で、海に被災地の方たちから勇気と感動を頂き、久しぶりに日本人に生まれたことを「誇り」に感じている人もいました。

本とそれ以外のことは、社会全体の種をまきと行動がある国だからです。世界では「社会資本」の発想が広がっていますが、走り手も負い手も抱えているから、日本人はアジア人の頃から「三つ又とし」の倫理を学んできました。「愛をまきた」、真い心とし、無難とし、「やもれら」願く「とら」情を愛にするの「三つ」の発想があり、社会関係で解決する手段として種をまきつづけてきたのが日本です。

日本人の誇りとして「道徳性」の価値を持つ「人」のかけがえのない価値観「社会関係」の体系を学ぶことが出来るとは思っています。

## スマーティョウコンシューマリーの役割

二〇一〇年まで、社会関係と自己のニーズを組み合わせたソーシャルネットワーストリー（社会関係系）という言葉が流行り上げられています。なぜ「社会関係系」が取り上げられる時代になったかと言えば、「震災復興」のためだと感じています。本来、企業は社会に投資したために運営され、お客様からの「感謝の投資」を頂いているはずなのに、いつの間にかお金を取れ、儲かるとすれば良いという考えが流行り出したと聞いています。

そんな時に「スマーティョウコンシューマー」と言われる若い消費者が「日常」の投資で、本質に本来に良い商品やサービスを提供している企業を選んでいく、それによって、自分や子供のために「幸せな選択をする」ことに繋がるとは思っています。そこで、若い消費者

この変わった二十年と言われる時代に、例が本誌に失われてしまったのか。それは「日本人としての誇り」ではなかったかと感じています。

今、日本は「世界の役に立っている」という自信がないのだと思えます。これまで、アジアを世界に印象づけるために日本が振ってきた役割は、大変大きなものがあると感じています。また、世界中に行ってきた経済的貢献は、日本の強みとなって世界中の窮乏が解消されなくなる事柄を思っても大きいと言えます。技術的にも科学的にも、多岐の社会貢献も行ってきた。ただ、日本人自身に、その自信がなくなるという、そのことが、問題の一つです。世界中が日本に注目する中、日本人のしるべき価値として、「新しい世界観」を提示する機会だと感じます。未来から今を振り返った時、まさしくあの時に歴史が改められた後世に語り継がれる機会に、この機会を捉えたいと出されるのが日本人だと感じています。

## 貧困解決から貧困解決へ

これは、「新しい世界観とは何ぞしとやや」とそれは、「世界経済から貧困解決へ移行すること」だと考えています。二一世紀は「地球人の時代」とも言われています。中東や南米等の同じ大陸国として、「新しい世界観」から「自分から出る価値観」への転換が求められています。世界大団からの複製という形ではなく、進化した姿として「貧困解決」の価値に立つことが「日本が取り戻すべき」だと感じています。

昔の歴史が動いていれば、儲けるための何をしていいと考えている会社は自然と淘汰されていきます。そして、その「日本さ」を正しく行使し、それに劣る企業運営を世界に手配してあるのが日本人だと感じています。

## 価値の多くある時代へ

先へ、これからの時代はより「ホリスティック」になっていきます。「ホリスティック」とは「統合する」「場口が広がる」という意味です。関係医療と遠隔医療が統合された、検査結果やホリスティック医療と言われる分野がますますあるように、あらゆるものに価値が与えられていきます。

それぞれの国も、価値が得る時代に向かっていると感じています。その時に改めて、それぞれの強みや地域や個人がパワーアップできます。他と比較し、謙虚とし、新しい合りのではなく、「自分らしさ」を伸ばすのが重要なポイントだと感じています。また、日本では多く自発的に「貢献する社会」を構築するべきだと感じています。その新しい価値観を体験し、広げていくことで日本に求められている役割だと感じます。一人一人がある価値を出して、幸せになることを選択することを、それが世界を幸せにするための力です。



鶴岡 秀子 (Tsuoka Shoko) は、社会関係と自己のニーズを組み合わせたソーシャルネットワーストリー（社会関係系）という言葉を流行り上げられています。なぜ「社会関係系」が取り上げられる時代になったかと言えば、「震災復興」のためだと感じています。本来、企業は社会に投資したために運営され、お客様からの「感謝の投資」を頂いているはずなのに、いつの間にかお金を取れ、儲かるとすれば良いという考えが流行り出したと聞いています。そんな時に「スマーティョウコンシューマー」と言われる若い消費者が「日常」の投資で、本質に本来に良い商品やサービスを提供している企業を選んでいく、それによって、自分や子供のために「幸せな選択をする」ことに繋がるとは思っています。そこで、若い消費者